

「周術期口腔機能管理の効果及び効果予測因子に関する

後ろ向き観察研究」へご協力をお願い

1. 研究の対象

2016年4月1日から2017年3月31日の期間に本院で全身麻酔下に手術を受けられた患者様

2. 研究目的・方法

目的：医科で手術を受ける際に、歯科で口腔機能管理を行うことによってどんな効果が得られるか調査することを目的にしています。また、収集したデータは当院からも学会で発表する予定です。

方法：過去の診療記録より下記の内容を収集し、周術期口腔機能管理の効果、効果を左右する因子について検討します。

研究期間：2022年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

性別、入院時年齢、入院時身長、BMI、喫煙歴、入院時体重、傷病名、重症度、手術内容、基礎疾患、全身状態、麻酔リスク、出血量、手術時間、周術期口腔機能管理の有無、歯科的合併症の有無

術後入院日数、術後発熱日数、臨床検査値、体重変化、術後感染・治癒不全・術後肺炎病名の有無、入院医療費

4. 外部への試料・情報の提供

個人が特定できない電子的データにより日本口腔科学会に提供し、データ解析を行う予定です。

5. 研究組織

共同研究機関名：NPO 法人日本口腔科学会認定施設（118施設）（理事長 丹沢秀樹）

研究代表者：信州大学 栗田 浩